

[話題提供] 本栖湖におけるレイクトラウトの生息確認

[要約] 2022年11月に本栖湖において全国で2例目となるレイクトラウトの生息が確認された。同年12月から刺網を主体とした調査・駆除を開始した結果、2023年3月上旬までに28尾のレイクトラウトが捕獲された。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・三浦正之

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 本栖湖漁業協同組合、食糧花き水産課

[背景・ねらい]

本栖湖で生息が確認されたレイクトラウトの調査及び駆除を実施し、レイクトラウトの生息状況の把握及び個体数の抑制を図る。

[成果の内容・特徴]

1. レイクトラウトは北米大陸を原産とするサケ科の外来魚で、海外の湖において本種の影響によって他の魚が顕著に減少した事例も報告されている。
2. 2022年11月、県水産技術センターが本栖湖において遊漁者が釣獲した魚の提供を受け、レイクトラウトであることを確認した（写真1）。本種の生息は栃木県の中禅寺湖に続く全国で2例目となる。
3. 2022年12月、県内水面漁場管理委員会は、漁業法に基づき山梨県内においてレイクトラウトの放流、再放流、生きたままでの持ち出しを禁止する指示を発出した。
4. 2022年12月から県水産技術センターが本栖湖で刺網（他魚種の混獲を抑えることを想定し大きめの目合（100mm以上）を主に使用）を主体としたレイクトラウトの調査・駆除を開始し、2023年3月までに計6回実施した。
5. 刺網による調査・駆除の結果、2023年3月上旬時点でレイクトラウト28尾が捕獲された（表1）。また、全長は最小29.8cm、最大92.5cmとばらついていた（図1）。
6. 重量ベースで、レイクトラウトが5割近くを占めたことから本捕獲方法は他魚種の混獲を抑えつつレイクトラウトを捕獲する方法として有効であると考えられた（図2）。

[成果の活用上の留意点]

調査結果は2023年3月上旬時点の速報値である。

[期待される効果]

レイクトラウトの個体数抑制及び駆除方法確立のための基礎資料となる。

[具体的データ]

表 1 刺網調査結果

設置日	回収日	魚種ごとの採捕尾数									刺網目合 (mm)
		レイクトラウト	ニジマス	コイ	フナ	ナマズ	ウグイ	オオクチバス	ブラウントラウト	ギギ	
22.12.27	22.12.28	1	3	1	2	3	1	5			100, 120
23.1.11	23.1.12	2	2	2	1	2					100, 120
23.1.26	23.1.28	7	5	2	6	8		1			100
23.2.8	23.2.9	7	14	1	14	4	4	2			50, 72, 100
23.2.20	23.2.21	4	2		9	1			1		100
23.3.7	23.3.8	7	4		5	1	8			1	50, 72, 100
合計		28	30	6	37	19	13	8	1	1	

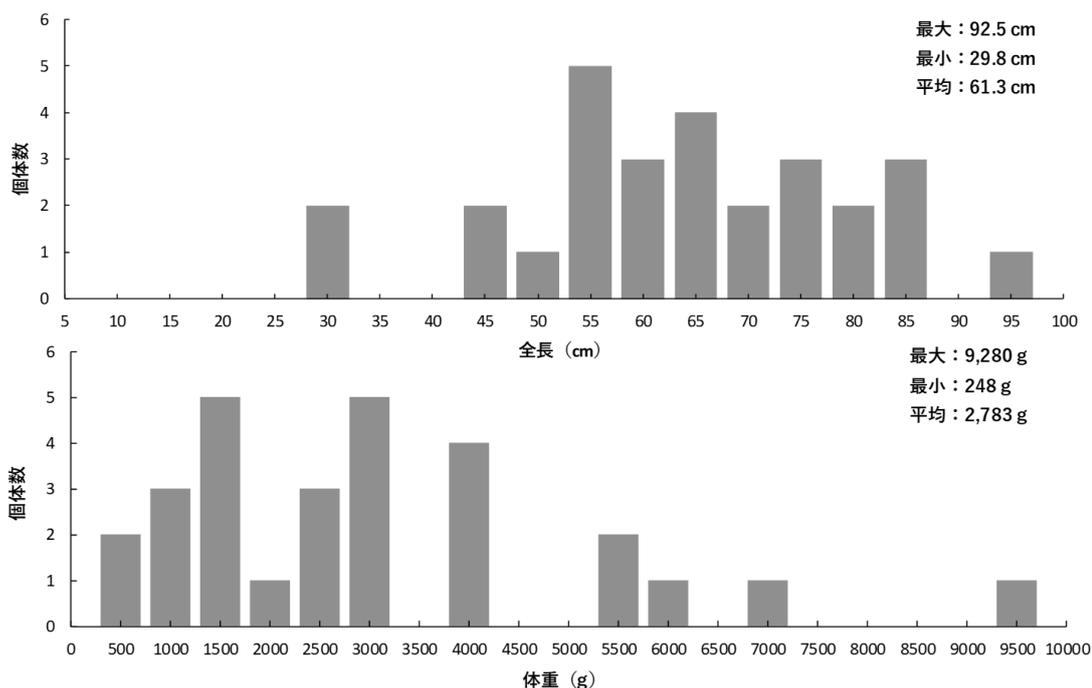


図 1 捕獲されたレイクトラウトの全長及び体重の分布

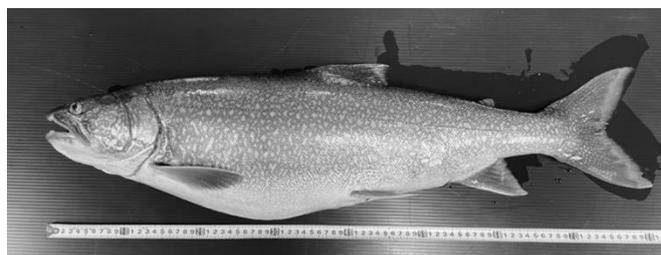


写真 1 県水産技術センターが確認したレイクトラウト (全長 81.3cm)

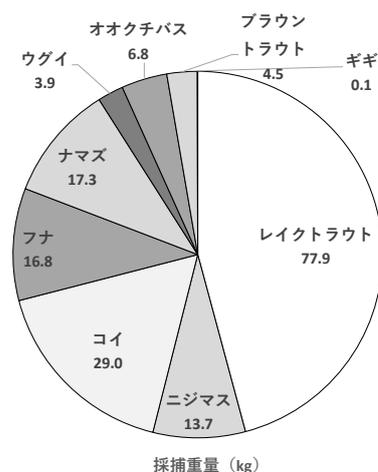


図 2 刺網調査での捕獲魚重量内訳

[その他]

研究課題名：レイクトラウトの生息状況調査

予算区分：県単

研究期間：2022 年度～

研究担当者：三浦正之、谷沢弘将、芦澤晃彦、藤原亮